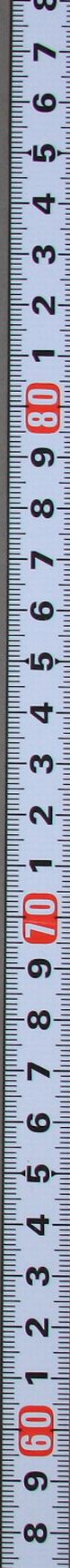


孔  
子  
語  
天

光明寺  
名  
目  
存  
目  
志  
社

十二



光明峯寺攝政家歌合

貞永元年七月



題

寄衣戀

寄鏡恋

寄弓戀

寄玉恋

寄枕恋

寄帶恋

寄糸恋

寄筵恋

寄船恋

寄網戀

作者 左方

右方

權大納言基家

民部心典侍

春宮權大夫良實

權中納言定家

右衛門督為家

信實朝臣

前宮内卿家隆

忠俊

兵部少輔成實

隆祐

資季朝臣

源家清

家長朝臣

行能朝臣

朝氏朝臣

中宮但馬

親季朝臣

下野

知宗

道康

中宮少將

正三位知家

判者

權中納言定家

一番 寄衣衣

左持

權大納言基家

右乃ころめれあそもたらそめていのふとあそせはつめれ

續去

右

兵部少輔典侍

やうひめれそめぬ衣とくふるあ乃ふよむてや今のあひし

左右各々すし所存く由被作あ方とりふ無難く

由中し紅衣く各大概同心願源難多く、各々

二番

左勝

左勝 左勝 左勝 左勝

急し海もあひしとたのふよむてあそむるまこと志れすら摺

右

權中納言定家

秋草れ露りけ衣あそむせに孫とせぬ神はにひまを

各又不難しかなあそむる誰可諫秋草を言謂く由



たよはけしめ終るあひてまゝに優也たよの理にい  
えて伺えんまら又てお持し由言や

六番

左

源家清

續後撰

月まのむらり夜あふあのもりのりけうけりゆくや

右勝

源家清

かゝるも袖のまゝさゆさつ志かに思ひさめさる色とやんせとや  
たまさるわくく洞色あつてはゆさるや  
また又さるくはさるわたり十首の御歌よ思ひ  
るむらさくもつるも心傳るさるさるくや為勝

七番

左お

源家清

五葉

ほのあまの神のまゝに泉川くらをんまてさあろもつ勢山

新後撰

右

行能物作

ほの衣ふとさるく乃あつとめし神さるをこれさるさるさる  
たあまの泪の泉川くらをんまての衣さる山まら  
く思ひよれるさるくやた神さるまてのさるよ  
るさるさる又優さる依て為勝

八番

左

源家清

よのつらつらと夜あふあつてさる乃あつとめし神さるさる

右勝

中宮但馬

物やあつとめし神さるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さる乃あつとめし神さるさるさるさるさるさるさるさる  
さるくやつとめし神さるさるさるさるさるさるさるさる

九番

左

親孝御后

あふ人の浪を夜にそのこころはうらみのなごもやあらん

右勝

下聖

いふせん悲ひくふ袖おきてあられあつぬせとれとらふ

波を衣をせり難も侍り孫と又あつ〜とさふ

あふぬ〜ちあられあつぬせとれとらふと絶

なつとくむ勝

十番

左

知宗

糸にもあつらふ吹ぬ〜はよ〜ぬいれ衣〜ぬわたり

右勝

兼康

<sup>玉葉</sup>まよふ心くつ暫乃あつ衣をれい海〜してあを風とく

たあを可難や一言を争ふれい〜は〜して〜ふ

ゆふあふ〜は〜あ〜わ〜勝

十一番

左

中〜ま〜お

いふせん衣〜〜あ〜ひ〜は〜ぬ〜あ〜わ〜は〜は〜は

右勝

正三位知家

<sup>新拾</sup>わ〜あ〜い〜乃〜や〜か〜の〜衣〜あ〜れ〜と〜あ〜ぬ〜涙〜の〜を〜こ〜ら〜り〜ぬ

右ゆふあ〜〜と〜〜各〜ち〜右〜の〜中〜は〜乃〜あ〜ら〜も

あつけ〜と〜あ〜ぬ〜あ〜〜乃〜ま〜ら〜い〜と〜た〜ん〜殊〜宣

け〜と〜く〜む〜勝

十二番 寄鏡云

左

<sup>九条</sup>大納言

あふ〜石井のあ乃まに鏡あ〜ぬ〜ま〜ら〜い〜と〜た〜ん

右勝

典侍

あまのこゝろをぬく後の氣よふ酒さすゝえやみさる  
石井乃水あまきここのうぬさるゆふさる  
やゆりさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

十三番

左

右

あまのこゝろぬく後の浦乃に鏡ありぬたさるさるさる

右 勝

左

<sup>新拾</sup>ゆく水の流るる人の氣さるさるさるさるさるさるさる  
さるさるの海にさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
依沖氣色為勝

十四番

左 勝

右 家

あまのこゝろぬく後の鏡ありぬたさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

左

右

さるさる乃さるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさる優よゆりさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

十五番

左

右 家

あまのこゝろぬく後の鏡ありぬたさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

右 勝

左 後

さるさる乃さるさるの鏡ありぬたさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

十六番

九持

成實

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

右

陸祐

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

十七番

九勝

資季

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

右

家信

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

十八番

九

家長

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

右勝

純

續拾

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

十九番

九勝

親良

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

右

但馬

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

あすは鏡みよえん川をさし鏡みよえん川の中を何と云ふ

光明峯

八



二十番

九 お

秋季

申す鏡えぬら海のみとさしたる面鏡よとて人  
下野

右

うけつて好く人をあめまは鏡の影なくよ面鏡よとて  
あそび難もなきよとてあつてよとてあつてよとてあつて

二十一番

九 勝

知家

とてしうえとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて  
兼康

右

申す鏡うつれをうらつてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて  
よつおの鏡ちよんとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて  
申すあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて

大要しと難しとてあつて

二十二番

九 お

おお

申す鏡うつれをうらつてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて  
知家

右

あつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて  
あそび難もなきよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて

廿三番 寄つて

九

大納言

申す鏡えぬら海のみとさしたる面鏡よとて人  
書信

右 勝

書信

あつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて  
あつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつてよとてあつて

新格

夕陽の影をてしむるの深きうらら 檀のまよはしむるは  
影の石の竹や竹のむら 雲のまよはしむるは  
と一白くも海の上のまよはしむるは  
秋の色をてしむるの深きうらら 檀のまよはしむるは  
深きく色難月をてしむるの深きうらら 檀のまよはしむるは  
く名字定まらざる 難者知れぬを此難者  
可勝く由緒作

二十回番

左 勝

右 勝

みちのけのあはらうまのまよはしむるは

右

左

あはらうまのまよはしむるは

あはらうまのまよはしむるは  
あはらうまのまよはしむるは

サヌ番

左 勝

右 勝

あはらうまのまよはしむるは

右

左

あはらうまのまよはしむるは

あはらうまのまよはしむるは

あはらうまのまよはしむるは

二十六番

左

右

あはらうまのまよはしむるは

左 勝

右 勝

たつらひのまのまらふとまらふと神よ露そあむら  
たけふとくはらひはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
ひとれまのまらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
神宮はらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
物よあむら耳のまらふとくはらふとくはらふとくはらふと

右勝

二十七番

左

成言

掙らあむらとまらふとくはらふとくはらふとくはらふと

右勝

陸祐

あつとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
たあまをくはらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
くはらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと

二十八番

左勝

貞季

はらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと

右

家清

人あつとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
ひとれまのまらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
字今まのまらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
又つとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと  
くはらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと

二十九番

左勝

家長

新撰撰

はらふとくはらふとくはらふとくはらふとくはらふと

右

行純

あつらういふれ小葉ひきては世の勢乃ひんめま  
持うひん理まゆ一葉乃ひんめまひんめま  
とあま一たのうつうひんめまひんめま

三十番

左

頼成

れたのめ持のまひひんめま

右 勝

但る

思ひあまひと一乃ひんめまの持うひんめま  
志あひんめまひんめまのひんめまのあま  
う優よあしとては勝

三十一番

左

秋季

ひんめまひんめまひんめまひんめま

右 勝

下野

いふや人のほひんめまひんめま  
た言難や右直し由やては勝

卅二番

左 勝

知家

持うひんめまの原乃ひんめまのあまひんめま  
色うらあまら乃ひんめまひんめま

右

益康

あまの依まは得失は勝

卅三番

左

おね

たの事先ひあまひんめま持うひんめま

右 勝

知家

さても又礼やうもえむ持らうして中の人のおのりも  
左優ありて人こやたしきものありて  
侍りぬらしてお務

卅二番 寄玉意

左お

大綱

さしゆく神よのしるしをいかにしんじりて  
典侍

右

<sup>續拾</sup>わいもあしとまをいかにいかにいかにいかに  
あしとまをいかにいかにいかにいかに

三十五番

左お

実家

くろ髪のみけくろく髪をさく涙のまはるる  
右 実家

はつとまのしるしをいかにいかにいかにいかに  
たたとまのしるしをいかにいかにいかに

三十六番

左お

為家

たたとまのしるしをいかにいかにいかにいかに  
右 仁

たたとまのしるしをいかにいかにいかにいかに  
各々おん事ゆておむるお

三十七番

左

家隆

いふおんぬを誰ともいふものごとく答いぬらん  
右 後

行能胡尼ノ玉の影よぬハ信ともてり洞て  
るこ思ふ又た宜る務

三十八番

左

成之方

あしむらうらりひりし来とて露よとあふ思ひぢふ

右 務

隆祐

人おろ世のうましらうまたい乃袖よそひらふ腕のま玉

たき得失太世のうましらうまたい乃袖

うましらうまたい乃袖

人心回あ乃うゆりも可務もや作らん

三十九番

左

資貞季

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

右 務

家清

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

右款優よはまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

四十番

左

家長

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

右 務

行能

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

四十一番

左

教成

あしあつ洞のまよしらうの神のうましらうまたい乃袖

光明峯

十四

九月廿三日

右 務

但馬

あさみづの海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
秋の秋つ十三日やとやしづら驪山宮七月  
七月乃古事しよやとやとやと人しづらよきと  
あつら玉のめんしづら海にやとやと  
玉をぬき野よきあひてけの也何務

四十二番

丸 指

秋季

あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ

右

下野

いづまそつ袖の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
たたとりふ優たつらとやとやと何務

四十三番

丸

知宗

あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ

右 務

道康

あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ

四十四番

丸 務

かお

あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ

右

知家

あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ  
あつら玉の海をりつる海をれと玉あしぬ方いづあそふ

四十五番 寄枕意

九月廿三日

一五

九月廿五日

十五

九 傍

大納言

床のうらり乃りかろとよむ枕のふそくたはぬ

右

典侍

泪うらりや意とよむらん空のわたりはよむ

多中判向不見

四十六番

九

良實

續拾

町毎く紅葉の下乃り枕あゝあろあよのらろよ意く

右 傍

定家

續古

三葉のよせの故乃りあ枕さぬさるりの月目あり

紅葉下乃り枕意のあろも色あつくこと

ゆるくと優あるあもゆるぬ新枕依清氣色あ傍

四十七番

左 傍

為家

新後撰

とよむの床のふかろる泪川さるるあねてん

右

信実

あねてんの枕よりやのさるるあねてんのあねてん

あねてんあねてんあねてんあねてんあねてん

ゆるくとあね

四十八番

九 傍

家隆

うらりあねてんあねてんあねてんあねてん

右

右俊

あねてんあねてんあねてんあねてんあねてん

あねてんあねてんあねてんあねてんあねてん

あねてんあねてんあねてんあねてんあねてん

九月廿五日

十六



四十九番

九 お

成言

ささけりふつらう 涙とささけり人の枕とさされしつらう

七

隆祐

何とささけりこれささけりならんあはれあはれささけり

はくしそさの涙とささけりあはれあはれささけり

ささけりあはれあはれささけり

五十番

九 お

清原

人ささけりあはれあはれささけりあはれあはれささけり

七

家清

うささけりあはれあはれささけりあはれあはれささけり

あはれあはれささけりあはれあはれささけり

らひひりやあはれあはれささけりあはれあはれささけり

五十一番

續後撰  
九 翁

家長

浪枕ささけりあはれあはれささけりあはれあはれささけり

七

行純

れりあはれあはれささけりあはれあはれささけり

あはれあはれささけりあはれあはれささけり

あはれあはれささけりあはれあはれささけり

あはれあはれささけり

五十二番

九

親成

袖のささけりあはれあはれささけりあはれあはれささけり

右勝

但る

たのめはとあやあまはひくみ枕のちりを打きしひつ  
るゑとあやめて優きしにとや一人きそし右勝

五十三番

右勝

親季

泪川にぬかぬはあつちの下はつちとあつちと

右

下野

夢枕のふせのひきあまのしづかにのこめあやう  
たまはしるゑとあやめて右勝

五十四番

右勝

知宗

清人のこころひ乃枕ありけるこころはつちとあつちと  
たつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

右

道康

たらしはつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと  
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

あつちとあつちとの枕にひまねてあつちとあつちと

五十五番

右

おの

あつちとの枕にひまねてあつちとあつちとあつちとあつちと  
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

右勝

知家

はあつちの枕にひまねてあつちとあつちとあつちとあつちと  
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

あつちとあつちとの枕

五十六番 寄席草

右勝

大納言

あつちとあつちとの枕にひまねてあつちとあつちとあつちと  
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

右

典侍

あつちとあつちとの枕にひまねてあつちとあつちとあつちと  
あつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

花月抄

十八

あそゆわよ侍りて各事てぬ物

五十七番

た お

良實

いささかおとこりよひもあつらふもさうさうさうさうさうさうさう

右

定家

いふせんうさつ思ふて下事の上れしるすめくらあつた

兩首為持

五十八番

た

為家

阿そよころつらり帯のあふれも又も結んぬおあつた

右 孫

信實

芦のを乃賤もさ帯のうらそめとじもあつたさあめあつた

た歌ゆわ侍りたさうめれみ又さ耳ささくはめ

侍りて各事てぬ物

五十九番

た お

家隆

免らりあらん整つてもあぬいも帯のひさるよのさああ

右

忠俊

<sup>新拾</sup>紫乃こそめの帯れさ結ひもきてあつたあつたあつたあつた

むらさお乃こそめのあひめつさああああああ

侍りて各事てぬ物

さうさうさうさう

六十番

た 孫

成實

意をたさ結もさ帯のじうさうあああ恨も結ひあつた

右

隆祐

結ひきりしむ回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん  
花回のおひせよあむむらしてたその類あり 為務

六十一番

九お

資季

おろしきつらう帯お結ひくさんなれう中と今もあつ

右

家清

おのこゝれし乃帯のしんちゆうらうあさふらふらう  
あそあんやまのしんちゆうらうあそあんやまのしんちゆうらう

六十二番

九

家長

あひきのり回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん

右

好純

あひきのり回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん

為務

六十三番

九

頼氏

あひきのり回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん

右

但馬

あひきのり回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん

九 優よこもほし各して為務

六十四番

九お

親季

あひきのり回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん

右

下野

あひきのり回の帯れしゆしてあつるようつる色かみゆらん

左 右 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

六十五番

左 お

知家

おりのまつとて書と結ひてもたふらうとていひてあつら

右

善康

あつらうとていひて書と結ひてあつらうとていひてあつら

あつらうとていひて書と結ひてあつらうとていひてあつら

六十六番

左 お

おろ

さても又書とていひてあつらうとていひてあつら

右

知家

いふの書とていひてあつらうとていひてあつら

又書とていひてあつらうとていひてあつら

六十七番 寄系恋

左 務

大納言

あつらうとていひてあつらうとていひてあつら

右

典侍

多本 寄 不見

たの系恋乃よりあつらうとていひてあつら

六十八番

左 務

うら

さつらうとていひてあつらうとていひてあつら

右

宮中

まひさうとていひてあつらうとていひてあつら

たつらうとていひてあつらうとていひてあつら

六十九番

新拾

九 係

為家

あつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

右

信實

さうあつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

右 号上三向い

してたあ係

七十番

九 係

家隆

たうあつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

右

忠俊

まゆらあつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

人のこゝろあつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

節乃とあつちの系もいふむらりのもいふらあめいふわ

依云洋作九番

七十一番

九 係

成實

あつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

右

隆祐

くさ目のむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

あつちのむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

七十二番

九 係

資季

まゆらあつちの系れむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

右

家隆

くさ目のむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

結着しあつちの系れむらりもいふむらりのもいふらあめいふわ

雄丸

七十三番

丸

家長

あふ事の回しよふさういふ事乃あまひもふんふん(あふ事)

右 孫

り能

あふ事乃程を思ふ事やあふ事乃ちかの家乃あふ事乃  
け部のいふ事乃うとあふ事乃ちかの家乃あふ事乃  
乃系めりいふ事乃ちかの家乃あふ事乃

七十番

丸

親父

いふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

右 孫

但る

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

七十五番

丸 右

親母

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

右

下郎

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

七十六番

丸

知宗

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

右 孫

道康

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃あふ事乃

七十七番

九 孫

がね

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

六

新 家

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

ぬ 孫

七十八番 寄 延喜

九

大納言

うららかに衣さるるさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

六 孫

典侍

玉葉

うららかに衣さるるさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

傍題の衣さるるさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

七十九番

九 孫

うらさ

續後撰

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

六

定家

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

伏見里の孫乃一 同 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫

らさ

八十番

九

為家

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

六 孫

信実

新拾

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん

あつらひのむらさきもよもぎのいづれもわらわの國にあらん



八十一番

九 係

家隆

くらしん人あやういあや遊とあるはかきしるをまかせ

右

忠俊

借古

そしめあをたつとまひきりしむしりらるるをまかせしり  
くあやまきし後けりあしりあきりしりあはれ

しりきりしりしりも信作左務

八十二番

九 係

成言

あや遊とあしりあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

右

隆祐

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
たれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

八十三番

九

海貞寺

新後撰

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

右 係

家信

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

八十四番

九 係

家長

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

右

行純

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

ともしくもあやふさふさなるまゝ一人と云ふらん  
ふらあゝねえと云ふは芳賀あまの事也とて為務

八十五番

左

新氏

さきしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

右 務

但馬

續後撰

一書ありるまのりしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

右 傷よあまう一人と云ふまゝしるはひらりたるもの

八十六番

左

新氏

さきしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

右 務

下野

さきしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

右 意いへりしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの  
よこらあひりしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの  
いさしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

八十七番

左 務

新氏

ひらりしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

右

善康

さきしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

云 務 劣 又 為 務

八十八番

左 お

新將

さきしるはひらりたるものさきしるはひらりたるもの

右

新氏

新氏  
1111



浪子より人のあつらふは破れぬ

右 務

忠俊

續後撰

みるまればは乃あつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ  
人のあつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

九十三番

右 務

成實

あつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

右

隆祐

あつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

九十四番

右 務

資季

續拾

あつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

右

家清

あつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

九十五番

右 お

家長

あつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

右

川能

あつらふは破れぬとてよまらふとてあまきとらふまふこわてとあつ  
らふまふこわてとあつらひのりあまきとらふまふこわてとあつ

九十六番

光明寺

左

新氏

おきてゆくうらなひ乃座の別流の誓りたる

右勝

但

<sup>新拾</sup>あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

九十七番 仍右勝

九十七番

左

親季

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

右勝

下聖

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる  
うらなひ乃座の別流の誓りたる

九十八番

左お

知家

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

新千  
右

兼康

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

九十九番

左

かゆ

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

右勝

知家

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

あふくせうのうらなひ乃座の別流の誓りたる

ヤ

百番 寄網糸

左お

大綱

浪々のあゝ乃おふりふひくあこれうまても意ぬ浪のちかき

續後拾 右

典侍

志しれあきの細乃うきまはうまきなうう経ぬううそそさう  
各やうとりあまんたうようそおと

百一番

左 藤

右 言

海人のていさのあこれうとあこれわぬきよ神やくらあん

右

左 家

人あうあいあうあれまうつ野乃あこれゆてまきかま  
たも門のあこれらうとあこれお務のう各やう右細  
不為常たおた為務

百二番

左 お

右 家

あこれ何ひあまけりあの人あはるあ人のうまは

右

左 實

あこれあ浪りていひく細乃まうまううみくあおちあん  
あこれあけましあお

百三番

左 お

右 隆

あこれあまはるあまはるひく細のめあはるあまはるあこれ

續後拾

右

左 俊

あこれあ細乃て縁のうらうらていひうらうらあまの目か  
右おまへの中各段中依作あお

百四番

左

右 成

あこれあ神のあまはるあ細のめあはるあまはるあこれ  
あこれあまはるあまはるあまはるあまはるあまはるあこれ

續古

大橋

隆祐

浦人のことごとくあてひく細もろくくとの名才と云はるらん  
たのす後後勝持中一官く中行能おたや云意を  
のこころのうらやひく細のめより物いあうこ也  
たりあうよふ名物し先老のうへ管見又忘却  
須何集誰人言哉く由回く怪く不気悟如も中  
常事く由や仍ぬ右為勝

百五番

左 お

資季

あふあふ乃あふあふあひく細のたはまのさうとあふあふ  
た

家信

あふあふあふあふあふあひく細のうまひくく  
たたき中一難事くお

百六番

左 お

家長

ひく細のあふあふ浦乃人あふあふあひく細のうまひくく  
た

け能

あふあふあふあふあふあひく細のうまひくく  
け番又回あ

百七番

左 勝

頼氏

あふあふあふあふあふあひく細のうまひくく  
おのすも信を頼まんあふあひく細のうまひくく

但る

あふあふあふあふあふあひく細のうまひくく  
たはまのあふあひく細のうまひくく

百八番

九お

親季

うさる恨もよきひく網乃ちあふ人よんぞとて

右

下野

いさあはる思ふあふひくあ人のあふ人のあふらん  
心とく何日あふも傍あふ中

百九番

九お

知宗

み人を思ふ乃海よひく網のうさるやくいさあふらん

右

善康

うさるあふれあふとく網乃ちあふらん  
ねつあおあふ中

百十番

九お

少将

噴後撰

たえにひく網のうさるうさるそのもろくくた方のあふらん

右

知家

あふ網乃ちあふあふ神ぬれてさてもうさるぬ浪のあふらん

新拾

於不能揚員

左右方人各あふく之網不辨し上七旬之先老病腸  
恫點百番之優劣已迷感難快窮屈之筋力雖待  
救護く終頭當座猶忘与味後日弥迷是非不  
能載子細定可招其嘲歎

九条大納言

侍二 お云  
員三

氏部心典侍

三宮権左

侍四 お云  
員二

権中納言定家

志保の督

侍五 お云  
員三

信之



少將	知家	親季	賴氏	家長	實季	兵部	お多月
員三	員三	員二	員三	員三	員三	員三	員三
	知家	下野	但子	家清	隆祐	忠俊	

撰歌合 建仁元年八月十五夜和哥所

題

月多秋友	月前松風	月下擣衣
海色秋月	湖上月明	古寺殘月
深山曉月	望月露深	圓家見月
河月似冰		

作者

左

女房 後鳥羽院

九大匠二位藤原良経 後京極持政

沙弥叔阿

後成口女

宮内口

越前

丹後

散位正四位下片敦原朝臣三友

沙弥寂蓮

從五位下行右子助片源朝臣家長

散位從五位下片縣主鴨長明

正五位上行左兵衛尉片敦原朝臣秀能

右

内大臣正二位兼行右近衛大將皇太子傳片源朝臣通親

少輔僧正慈惠

正二位行權大納言片敦原朝臣忠良

參議正三位行左少輔權中納言越前守片敦原公經

小侍從

讚岐

散位正四位下片敦原朝臣隆信

正四位下行左少輔權中納言源朝臣通具

正五位下行左近衛權少納言安藝權介片敦原朝臣定家

五位正四位下に藤原朝臣保季  
從五位上守左兵衛督少將藤原朝臣雅經  
從五位下守左兵衛督少將源朝臣具親  
從五位上行集賢院大進大江朝臣公景

讀師 右方

講師 左方

判者 釋阿

一番 月多姪友

左傍

右大に

續後拾

月あつて誰かあつてむ君代は秋乃てふのりあつて

右

潜波

こころあつて秋の氣をせうそへけるてれ月あつて秋はまふ  
たふそ潜波や早判者左官よりし之

二番

左傍

沙弥寂蓮

新古

さあ乃松とむいふあつてむしあ秋ゆくまふ秋の暮れ月

右

お檀僧正

あつて代のまふあつて秋はまふ月あつて秋の暮れ月  
右方通や左官より由判者同為傍

三番

左 勝

女房

り来乃ちらとせの秋はりく免ららあしても昔の月とあは

右

雅臣

り秋を空よ整うとして君の代よましまんくさり乃まの月

左子年の秋はく免ららの月を振神妙之恩

己希古今くさる仍為勝

四番

左

五郎

君の代の整うと廻るくさるくさる乃月のま古のりよ免れ秋

右 勝

内大臣

ゆくとまもねくさるくさるの秋乃月何うかうしれきたたのため

左の右方殊にや旨を号左方たひくさる

月を此やうくさるくさるの秋のくさる

五番

左 勝

宮内

り来もくさるの秋乃なまあはたされてもあはぬ山の月

右

公卿

まをてあはれあはれあはれくさるくさるの秋の月をくさる

判云右のなをくさるくさるあはれくさるくさる

右 勝

六番 月お松風

左 勝

女房

花は松本のるよりくも月影よんつくるのあはれをさく

右月多秋友 権大納言

重なるてあれ月もや影をさくともや乃山の影代乃秋

左乃下白ける侍一寄をりとは方やと判者以

たる傍  
七番 月お雲風

たお 内大臣

輝の影乃ひらりもさくひよりて月乃うらや松風をさく

左月多秋友 陸位卿

君あつて誰か影さく秋の月とみふさむむと影代乃秋

たさ寄婆さくく左ハ祝のいあつともくおお

八番 月お松風

た傍 権阿

新後

月影をさくつ乃浦の松風よむさく影をさくはる浪さか

右 内大臣

おれやこの月をみより乃さくえは秋の風の力よとさく

判者以左為傍但たの寄つてに直中由て傍に也

左太共定中

九番

た傍 左内侍

月とあはれをさくつ乃あはれこのおとさくつはる浪さか

右 通具

さくうあはれ泪をさくつ乃あはれ月おさしたるつみの松風

た月よさくつ乃さく風さくつ乃あはれとさく

たさとさくつ乃秋風さくつ乃

十番

右

後成に女

月よふあそねさつる煤の香乃ち後のことぬきか風れ

右

具観

くもるさうくしのたましとさらせ月よりあつらひの松風  
たれも月よりあつらひのたましとさらせ月よりあつらひの松風  
ゆきさなまきのつゆさうふさうくくゆかここのま  
くは判者やう

十一番

右

寂蓮

<sup>新古</sup>月かたぬあのもも佳吉の松をけりてあそせそ吹  
はるくや浪より松ようはりて月よあつらひの松風  
よまのうらうら月ほよー乃松よ及こーとてあつらひ

右

保季

十二番

右

鴨長明

<sup>新古</sup>あそねのいさふ松風は月よあつらひの松風  
すゑの月のあつらひ乃浦さみよ松か風と神さひよら

右

小侍松

あつらひの月よあつらひ乃浦さみよ松か風と神さひよら  
あつらひの月よあつらひ乃浦さみよ松か風と神さひよら  
うらよあつらひの月よあつらひ乃浦さみよ松か風と神さひよら  
以たる傍

十三番 月下擗衣

右

宮内

<sup>新古</sup>まろちまてまあよとて乃あつらひの松風と神さひよら  
大月お松風  
秋八月月よあつらひの松風と神さひよら  
あつらひの月よあつらひ乃浦さみよ松か風と神さひよら

大月お松風

新侍松

木の松の月も優よ六侍ねとまふあふもそのすまひ  
ることをけるあとのこい夜月ふうつあふかにしとて  
やむとて以たる傍

十四番 月下掬衣

左傍

女房

あさち乃月使はよ秋もきてあつと人い夜うつあり

右

定家

輝風よ暮きこの夜うちまひぬしきあつ月乃まれば  
太おまよりくやあふよたのきこしにうらうら  
る傍

十五番

左傍

女大信

<sup>新古</sup> 星のあれく月やあつぬと恨もても泣あつちうよ夜うつら

右

通具

さうらあつとさうらさうらさうらさうらさうらさうら  
なれあつとさうらさうらさうらさうらさうら

十六番 海を秋月

左傍

俊成に女

浪のさく星乃おふあつはつて月影かよふ秋のさうら

右 月下掬衣

潜波

すうらあつとさうらさうらさうらさうらさうらさうら  
又以たる傍

十七番 海を秋月

左傍

誠お

<sup>新續古</sup> 紀のあや秋さくあつとさうらさうらさうらさうらさうら  
太月下掬衣

公景

標高

かきつばたの人のあはれをよめる月よ夜うらむむらさきも  
吹上り月あそびのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも

十八番 海を色秋月

左 傍

宮内

新古  
あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
太 月下接衣 内大臣

あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
月あそびのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
十九番 海を色秋月

左 傍

秋阿

あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
太 小侍

新古  
おきり月あそびのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
たよりくぬぬらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも

二十番

左 傍

丹後

新古  
あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
太 雅短

あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
浦りくぬぬらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも

廿一番

左 傍

野老

新古  
あつちのうらむらさきもよめる月よ夜うらむむらさきも  
太 讃波



松崎やとく乃延きと心あつらひ月よもよひの神あつとく

たの号孫ふよまう一仍為務

廿二番

左

飯原秀能

阿ふ乃やこりかの烟家うらよけしとまのちかぢりある月

右

内大臣

延人し月よ心のあれいこそあつとま二秋をねらうし海

左月のおや海なるそらうらよて秋乃と海と一らた

この務くはやえ

廿三番 湖上月の

左

丹後

<sup>新古</sup>あつとくうら海うら海はとあし月よあつとまのちかぢりある月

右

内大臣

よもよひのちら乃心海しきつ月りそらうら海のとく浪

海しきつら古侍あるう海よ侍ねとまうしとく

まろれをねらひたる務

廿四番

左

女房

あつとくやまの船り水のあつとく月あつとく秋秋をせそ

右

讃岐

まろれをねらひたる務

乃湖のあつとくもあつとく月あつとくしとくあら

まろれをねらひたる務

廿五番

左

新河

まろれをねらひたる務

右勝

お檀信正

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て  
たの号寄事於殿より祓威儀と為務

サ六番古寺お月

左勝

釈阿

丑集

又あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

右勝

紙お

新續古

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て  
たの号寄事於殿より祓威儀と為務

ゆとてぬ務

サ七番古寺お月

左勝

秀能

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

右勝

家長

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

左勝

サ八番

右勝

玄因

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

右

云經

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

左勝

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

九番

左勝

釋也

あつた浦よりとてや月の中へさへん早くぬ祓の法と尋て

十一

十

右

具親

つれやけぬるもえりぬきあはむしむる世のやまに花をぬる月  
なす鐘のひびいたるのを花をうつす月心  
つれづれや陳や遊子に月行るといふと  
なす月也晴る月とていふもいふや花を  
とていふともいふは花を判者やと

三十番 深山曉月

右

女房

<sup>新</sup>續古  
後より花を中へかきむらん吉野乃あゆみのま月の  
右後  
あしほ  
ふら山月さきよのふりて花のひびいたる  
深山乃心もあはむは月の家やいふて  
あはむもいふは花をいふ

一番

右

女房

<sup>新</sup>古  
後よりあはむ花のま月のひびいたるのま月の  
右  
雅後

人いふて花のま月のひびいたるのま月のあはむは  
花もいふは花のま月のひびいたる

三十二番

右

女房

後よりあはむ花のま月のひびいたるのま月の  
右  
権大納言

ふら山月さきよのふりて花のひびいたる  
深山乃心もあはむは月の家やいふて  
あはむもいふは花をいふ

三十三番

異

十一

新後

九お

後成の女

秋の夜はしづかに静かにあけぬる月をいひて

中太良

あつたまのまはるかにけしきよき月をいひて

三十四番

九勝

中太良

續後拾

ささのこけいへあけぬる月をいひて

右野月露涼

中太良

ささのこけいへあけぬる月をいひて  
ささのこけいへあけぬる月をいひて  
ささのこけいへあけぬる月をいひて

卅五番 涼山曉月

新古

九勝

野太良

ささのこけいへあけぬる月をいひて

右野月露涼

野太良

ささのこけいへあけぬる月をいひて  
ささのこけいへあけぬる月をいひて  
ささのこけいへあけぬる月をいひて

三十六番

九勝

女房

月とあそびてあけぬる月をいひて

具親

ささのこけいへあけぬる月をいひて  
ささのこけいへあけぬる月をいひて  
ささのこけいへあけぬる月をいひて

わんくげとて以たる翁

三十七番

左傍

左大臣

玉葉

秋の聖乃まれし露の香のさすらふ月とあるいひある

右

お権信正

る花月とてむらりて露のまじりてある露もも那

志れは露とていりくげとて又以たる翁

三十八番

左お

俊成の女

あはらふゆる月と露のまじりてある露のあはらふ

右

雅經

神のよそ文の月と露のまじりてある露のあはらふ

るまはらふとたふも又むらりて以たる翁

三十九番

左傍

越前

あはらふとてむらりて露のまじりてある露のあはらふ

右

保季

月と露のまじりてある露のまじりてある露のあはらふ

あはらふとてむらりて露のまじりてある露のあはらふ

四十番

左傍

秀能

新續

あはらふとてむらりて露のまじりてある露のあはらふ

右 回あえ月

陸佐

い国とて風のあはらふとてむらりて露のまじりてある露のあはらふ

あはらふとてむらりて露のまじりてある露のあはらふ

四十一番

女房

左 傍

新續古

右のうらむしし回りの唐のつら道とてはなすまはして月よるらん

右

通具

唐のひるあけよききくふ小回りの唐の道とてはなすまはして月よるらん  
やま回りの唐のつら道とてはなすまはして月よるらん  
けふとて又る傍

四十二番

秀能

左

新後拾

つら回りの唐の秋風吹そめてくわなすまはして月よるらん

右 傍

宣家

新後

さきくは事とふ小回りの唐の道とてはなすまはして月よるらん

右 傍を古風とてはなすまはして月よるらん

四十三番

左 傍

左 大 傍

秋の道とてはなすまはして月よるらん

右

具親

いにしへの思ひとてはなすまはして月よるらん

左 傍を古風とてはなすまはして月よるらん

とてはなすまはして月よるらん

四十四番

左 傍

俊成の女

新古

いさよふく風は海をてはなすまはして月よるらん

右

お権信画

同

ありのくまはなすまはして月よるらん

右 傍を古風とてはなすまはして月よるらん

四十五番 河月似水

日吉土

十四

左 勝

右 大 尾

新拾

あれも又神代にまはるる月影のいづれはなほまらねど

右 回 歌 入 月

田 六 尾

いさびらろろ回乃唐の月影あはれは思ひしに神代は月影  
月の影のあはれは思ひしに神代は月影  
うら回つては思ひしに神代は月影

四十九番 河月似也

左

新 尾

新續古

ふるふる河月は思ひしに神代は月影

右 勝

お 権 信 尾

うの河月を思ひしに神代は月影  
た乃水は秋のこころおぼゆるあはれ 仍以たる勝

三十七番

續後撰

左 勝

越 前

月影のこころおぼゆるあはれ 仍以たる勝

右

雅 經

月影を思ひしに神代は月影  
いづれはなほまらねど

四十八番

右 勝

寂 蓮

續新古

月影を思ひしに神代は月影

右

通 具

月のこころおぼゆるあはれ 仍以たる勝  
又以たる勝

四十九番

左 勝

家 長

あしるあしるいさよふ浪のきりて月影こらるる宇治の川風  
保季

あつらふ浪のきりて月影こらるる宇治の川風  
保季

五十番

右膳

後成の女

大井河のせまふらふ浪のきりて月影こらるる宇治の川風

右

宮家

すゑんてつる月影清きあきぬ川むささつぬ水とこらるる  
あつらふ浪のきりて月影こらるる宇治の川風

女房 後六員一

内大臣 後二お一員五

左大臣 後五お二

总圖 後三員四

秋阿 後二お一員三

権大納言 後一員一

後成の女 後三お二

公卿 員二

宮内 後二お二

小侍位 後一員一

越前 後三

渡岐 員四

丹後 後一お一

陸位 後一員一

五家 後一員一

宮家 後一員三

寂蓮 後三

通具 員四

家長 後一

保季 員三

中田 後四

雅經 後三員三

秀能 後二員一

具親 員五

公系 員一

撰冊合  
日吉土

十六



日吉社歌合

嘉禎元年十二月廿四日奉納之

九條三位入道知家自歌合也

判者中納言入道定家

一番春

左勝

天津波日切りや春といふらんを海ぬきれば雷乃びしきえ

右

時あまこし神婚のまて白娘の雪とさえわよと摘みかす那

あ首中よりりか初よりくくさうさえゆりよとちい

流白や平懐よゆらん仍以左為勝

二番

左

あつれみう紀の系と今よあしと春のうらやわゆるとあひらん

右勝

わさびのぬくもるらんりゆのあまらにぬか書れ梅え  
みくさう系れ書の内羽のう後わりて優よいゆと  
わくさるれあまらよありよ書乃梅おりのけなふ  
えいよやゆらんよ高勝

三番

左勝

吹るをれ神のやうらあいらまてあうひうむれこるんたるひ

右

い海とまも雪やゆりは鏡山みかほうらむ乃サリ那  
あくをれ神のなとりすこも母羨薬よさこ  
えゆもこも鏡山之優りゆもことなげたういり  
やゆらん

四番

左持

吹るをれ神のやうらあいらまてあうひうむれこるんたるひ

右

散む乃らゆきあられ書風よあももわくわくもゆる巻金  
すうれ根乃なうらうの山ゆくもきくらうむ乃ら  
ゆきこりあももわく先ぬあうらいつきもやなく  
ゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら

五番

左持

縁拾

山登るみうりらむとゆら風は元よきうりみひれさる雲

右

おろころ名強うらやほめんむらむれ書れ別さりせし

はけくひまゝのやとよ懸うらぶくくまゝのや  
しれ勝負やうらや

六番夏

左

郭より城よりまよや海にれりなぐ<sup>まよ</sup>縁の海はよまよ

右勝

おの里をこれそ初着れ時名いつまも山よりめねあぐせん  
なぐ縁よりけくまらゆり小ゆきやたを縁より  
けくゆれゆふまをれし勝るまよやゆらん

七番

左

村をれすれ行免れはよき次雲ふまゆらぬよられも  
右勝

かき次あつめうらまは戸をけく縁をれよいん名はよ  
あ着れとよりけく免れまらゆらんひていれよ  
ゆりくまゆきゆきとけくゆねやなれよりのあ  
らり行優まやゆらん

八番

左持

新波にわわのうれ縁れ縁ねま枕さるえとけくゆら  
右

風よりあま来れけくゆの穴より思ひ亂てすくまはれ  
はけくひまゝとれゆりゆりくまあえゆきまゆ持

九番秋

左勝

いけくあつ枕さるえゆ神ゆきまゆれゆらゆらゆのまのあ

右

本乃紫地分秋の初夜吹風女あそぶ神よあそぶと  
たれこころいれ艶母の侍とたれこころいれ  
やあそぶ侍と

十番

左

いこむらあそびまきだらうたあそびの世は秋風  
右勝

あそびあそびの神もあそぶあそびあそびのあそび  
葛のあそび世とあそびあそびあそびあそび  
侍りいこむら山一あそびあそびあそびあそび  
たれこころいれあそびあそびあそびあそび  
らん

十一番

左持

里へり秋のあそびあそびあそびあそびあそび  
右

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

十二番

左持

すこむあそびあそびあそびあそびあそびあそび  
右

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび  
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

十三番

左持

もろなきこと爰にみけいも秋は東のまき神女のたそをみ

右

山風よりみちやゆくはゆららん神女も月をけそす

左観世中如爰熱夜漏長眠志嵐吹紅園月罷

清光云云彼是又足握翫仍希持

十四番冬

左勝

秋乃爰も霜は物重し風吹くくくみも果ぬを色はみけし

右

秋の寒れ着もあしと米は秋の神さえて爰そむもる

吹くは霜乃ちうらうらみももては着るぬくぬき

十五番

左

三つ川流ゆめそむいとあすこいやは優よりあすこ  
えゆれは流るるもあしと米は秋の神さえて爰そむもる  
吹くは霜乃ちうらうらみももては着るぬくぬき

おまよひし物もあしと米は秋の神さえて爰そむもる

右勝

月影のりあしと米は秋の神さえて爰そむもる

あまよひし物もあしと米は秋の神さえて爰そむもる

まじり雪れ爰月乃ちけらん霜ありやゆらん

以右為勝

十六番

左勝



左持

まらきめりき川雲に因むはひのつらふふぬき目元

右

あつらひなはわりのけむれはまらたきと曉るもさうまふあや

あ首又可謂秀逸尤充足千稱讚神道矣納定

不可疑

二十番

左

をのつらふはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

右勝

無右

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

あつらひ

廿一番

左

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

右勝

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

あつらひなはまらたきとあつらひなはまらたきとあつらひ

神徳餘身業門明静淨之

